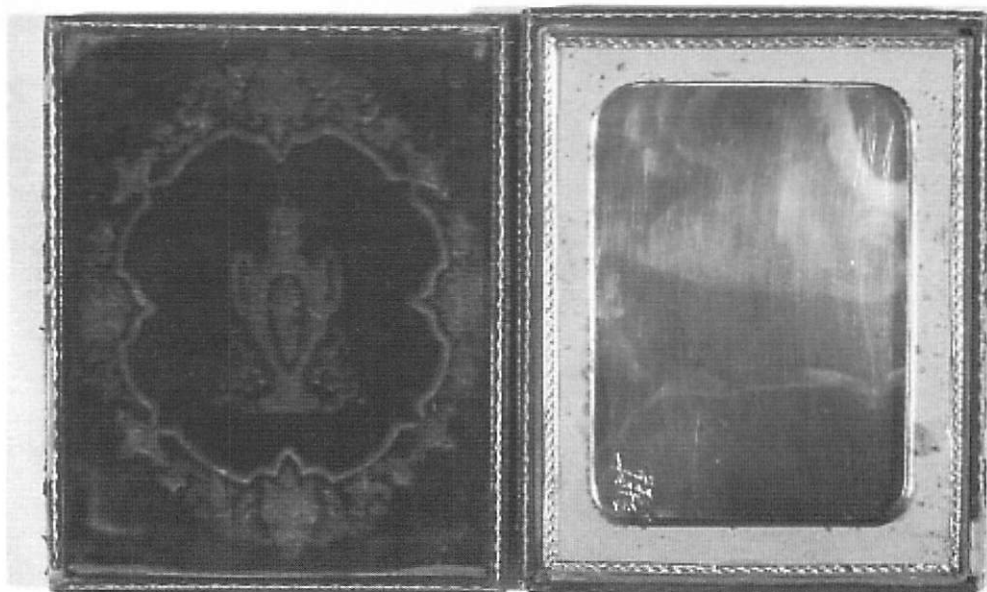


市立函館博物館報サラニップ

SARANIP

No.46 2007.3.31

重要文化財 銀板写真



銀板写真（石塚官蔵と従者像）（石塚光司氏 寄託）



銀板写真（複製写真）

本資料は『銀板写真（石塚官蔵と従者像）』、松前藩士石塚官蔵と従者三人の集合写真です。1854年、ペリー艦隊の従軍写真師エリファレット・ブラウン・ジュニアにより撮影され、戦前からその存在が知られていた著名な資料でした。画像は極めて不鮮明ですが、劣化が進行する以前に作成された複製写真によりかつての画像を知ることができます。平成18年6月9日、同封の「添状二通」と「ウィリアムズ・羅森合筆扇面」とともに、国の重要文化財に指定されました。

嘉永7(1854)年3月31日、日米和親条約締結の交渉を終えた後、ペリー一行は開港場となる箱館の視察に向かいます。石塚官蔵はその際、松前藩家老松前勘解由、用人遠藤又左衛門とともに箱館でペリーとの諸交渉にあたりました。

銀板の大きさは縦14.3cm、横10.8cm、厚さは0.8cmのハーフプレートで、表面に押し型による植物の飾り模様が施された革製の化粧箱に入れています。銀板の右下隅には「E.Brown Jr./Hakotadi/Japan/1854」と撮影者の刻銘があります。添状は二通、そのうち一通は化粧箱の底に貼り付けられています。内容は「Presented by Commodore M.C. Perry Hakodadi. Yesso. June 1st 1854 此日影像/亜國提督被理呈贈/石塚官蔵 甲寅五月初大日」箱の底には「E.Brown Jr./Daguerreotype artist/U.S.Steam Frigate Porhatan/Hakotadi/Island Iesso/Japan /June 1st 1854」とあり、この写真が1854年の6月1日に撮影され、ペリー提督から石塚官蔵へ贈られたことが記されています。重要文化財指定の理由には「この資料は外国人が日本国内で日本人を撮影した現存する最古の写真の一つであり、幕末開港交渉という歴史上に重要な事象を跡づける遺品として、対外交渉史及び写真史上に貴重である」とされています。ペリー提督の来航・交渉によって日本は300年来の鎖国から解かれます。国内では、これを遠因として戊辰戦争が勃発し近代日本が誕生することになります。

本資料はまさに現代の私達へと通ずる近代日本の誕生を証明する遺品の一つといえます。

佐藤 智雄

平成18年度特別展報告

没後20年 梁川剛一

函館出身の彫刻家・梁川剛一の没後20年を記念し、故郷函館で初めての本格的な回顧展を6月20日(火)から8月20日(日)まで博物館本館を会場に開催し、2,208名が訪れました。開会式にはご遺族の斎藤ルリ子氏・梁川美恵子氏が列席されました。梁川剛一は明治35年(1902)に函館に生まれ、東京美術学校で彫刻を学び、在学中から帝展に入選するなど才能は高く評価されます。大学卒業後、函館に戻った梁川に、地元の名士は肖像彫刻を依頼し、再び東京で活動できるよう支援します。その後も故郷とのつながりは強く、昭和33年(1958)には函館市の依頼により、函館山の麓に＜高田屋嘉兵衛像＞が制作されました。



テープカット風景

中央梁川剛一ご遺族2人、右梁川剛一出身校あさひ小学校の児童代表



展示解説セミナーの様子

一方、梁川剛一は戦前戦後を通じて、『少年倶楽部』や『少女倶楽部』など少年少女向けの雑誌や「講談社の絵本」などでさし絵画家として活躍し、大変な人気を博しました。昭和20年に疎開した札幌では「エルム社」を創設し、子供の絵本を出版し、また雑誌『北の子供』の表紙やさし絵、紙芝居なども描きました。その後東京に戻り、世界名作全集や偉人伝を数多く手がけ、昭和61年に84歳で世を去るまで生涯現役で活躍しました。

今回は、「彫刻家」、「さし絵画家」としての代表的な作品に加え、函館を愛する「郷土家」としての活動、趣味の息を超えた「発明家」としての意外な一面も紹介し、すべての面で全力投球な梁川剛一の人柄もお伝えできたのではないかと思います。

霜村 紀子

平成18年度特別展報告

「北の守りと外国—蝦夷地に築かれた城—」



箱館奉行所跡出土の謎の埋甕



展示資料に見入る観覧者

今年度の特別展は7月25日から9月18日までの54日間開催しました。期間中有料・無料あわせて15,467名の方々にご観覧いただきました。

特別展では、近世後期から幕末にかけてロシアの南下や箱館開港などの対外関係により大きく動かされた蝦夷地の様子を取り上げ、それによって築造された東北諸藩の陣屋や松前福山城・五稜郭の資料を展示・紹介しました。

「蝦夷地と外国船」のコーナーでは、寛政4年にネモロに來航し箱館を経て松前で会見したロシアのラクスマンや寛政8年にアブタ・エトモに來航したイギリス船プロビデンス号、文化3・4年のロシア船によるカラフト・エトロフ襲撃事件によって蝦夷地出兵を命じられた東北諸藩の様子、さらに文化8～10年に起きたロシアのゴロヴニン・高田屋嘉兵衛の捕縛事件なども紹介しました。

「開港と北方警備」のコーナーではペリー艦隊の箱館來航の様子、箱館奉行の設置とその政策について、南部・津軽・会津・仙台・秋田・庄内藩が蝦夷地の警備を命じられ、陣屋を整備していく様子を紹介しました。「北方の城—江戸幕府」のコーナーでは箱館開港により箱館奉行が再設置され、奉行の幕府への上申により役所・役宅の移転および台場の整備が決定します。これが五稜郭・箱館奉行所および弁天岬台場の建造です。五稜郭や弁天岬台場の図面や写真を紹介するとともに、五稜郭からの出土品を多数展示しました。その中でも特に、昨年の発掘によって奉行所玄関跡から出土した信楽焼の、高さ約80cm胴径約50cmの7つの甕は、観覧者の方々に驚きを与えていたようです。「北方の城—東北諸藩」のコーナーでは、箱館の南部・津軽陣屋、シラオイの仙台藩元陣屋を取り上げ、特に仙台藩元陣屋から出土した生活道具や仙台藩士三好監物の資料を展示しました。「北方の城—松前藩」のコーナーでは、松前福山城から出土した遺物や松前藩が築造した戸切地陣屋(現北斗市)から出土した多種多様な生活用具の遺物、明治元年の藩内政変で城の移転が行われ築造された館城(現厚沢部町)から出土した遺物などを展示しました。

保科 智治

予報！平成19年度展覧会先取りチェック

特別企画展「蘇る北の縄文ロード」

－発掘された縄文の世界－

北の縄文ロードを形成した、函館を中心とした北海道や北東北から出土した埋蔵文化財を紹介していきます。道南地方をはじめ、道央地方や北東北地方の出土品を鑑賞することで北の厳しい自然環境の中で行われていた、縄文人の文化交流を思い起こして頂けることでしょう。

さらに南茅部著保内遺跡より出土した国の重要文化財に指定されている中空土偶も展示予定ですので、是非ご覧下さい。この機会に縄文文化に触れ、考古に対する興味を深めて頂きたいと思っています。

開催場所 市立函館博物館本館

開催期間 平成19年7月1日(日)～8月19日(日)
成田 光

特別企画展「アイヌからのメッセージ2007」

－現代から未来へ－

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構との共催により平成15年度に実施された「アイヌからのメッセージ－ものづくりと心－」の第2弾としてアイヌの人たち自らが企画・構成・展示し、アイヌ文化の現在を紹介するものです。

現代に生きるアイヌの人たちの製作した民具・工芸品などを通じて伝統工芸の技と美に触れると同時に、時と共に変化し無限に広がる流れを感じ取っていただけることでしょう。この機会にアイヌ文化に対する理解を深めて頂ければ幸いです。

開催場所 市立函館博物館本館

開催期間 平成19年9月2日(日)～10月21日(日)
霜村 紀子

特別展「さらば五稜郭の星」

第1部「血戦！戊辰戦争－東北・蝦夷地の戦い」

市立函館博物館五稜郭分館は平成19年度をもって閉館となる予定であり、半世紀にわたる活動に幕を降ろします。平成19年度の特別展は2部構成とし、第1部は、戊辰戦争最後の戦いの場となった五稜郭ということもあり、箱館戦争を中心に東北で行われた数々の激戦も取り上げて紹介していく予定です。また新撰組に関する資料やその分身ともいえる新徴組の資料なども合わせて紹介していきます。最後の特別展をより多くの方にご観覧頂きたいと思っています。

開催場所 市立函館博物館五稜郭分館

開催期間 平成19年7月14日(土)～9月17日(月)

第2部「さようなら これが五稜郭分館だ！」

昭和30年6月に市立函館博物館五稜郭分館として開館してから半世紀、小学生の頃見に来て頂いた方も還暦を迎えている、そう考えると長い道のりを歩んできたと思います。開館当初は歴史資料だけではなく自然資料も数多く展示されていました。科学教室という名の付いた部屋がその名残です。第2部の展示では、五稜郭分館が収蔵する資料をなるべく多く公開するとともに、分館誕生のきっかけとなった北洋博覧会に関する資料、五稜郭の堀で行われていた採氷事業に関する資料などを展示する予定です。

開催期間 平成19年10月2日(火)～11月30日(金)
保科 智治

今年度の博物館実習より

－未来の学芸員を目指して－

「実習を終えて」

私達実習生にとって市立函館博物館での3週間は、その期間では詰め込むことの出来ないほど、実り多き実習になりました。

私達実習生は、収蔵物に関する専門的知識が乏しく、作業に手間取り、迷惑をかけてしまうところも多々あったと思います。しかしながら、そのような反省も踏まえ、収蔵物に向き合っていくと大きな愛着が実習生各々に生まれてきたのは確かです。収蔵物について調べたり、何を伝えたいのか、展示方法や解説を自主的に考えるようになり、次第に博物館の見方も変わってきました。そのような中で実習生や職員の方々とのチームワークが深まり、それぞれの個性が引き立った実習になったと思います。

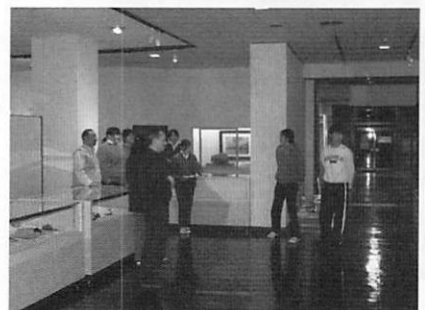
これから私達は様々な道へと進みます。しかしながら、博物館実習において得た、収蔵物への愛着と考え方に対する思いを多くの人に伝えていきたいと思っています。

博物館を地域財産として。

実習生 齋藤 誠
(北海道教育大学函館校 4年)



展示を考える実習生



展示の解説をする実習生

自然常設展より資料紹介

野生化したブタ

2006年12月から、新年に向けて、イノシシを展示しました。いや、正確には「野生化したブタ」です。

この資料は、1881（明治14）年に旧尾白内村（現森町）で捕獲されたものです。捕獲当時から、イノシシか、ブタかということが、ことあるごとに話題になりました。イノシシの説は犬歯が発達して鋭いキバがあること、頭から背中にかけてふさふさした長い毛で覆われていること、足には蹄^{ひづめ}があることによります。ブタの説はイノシシのように顔が細長くなく、特にブラキストン線を含め、北海道にはイノシシがいないという説が有力であることが根拠になっています。

実は、このように野生化したブタについては、日本だけでなく、海外でもよく知られており、まさにイノシシと見間違えるほどのものです。ブタにキバは似つかわしくないとわれがちですが、基本的には、ブタはイノシシを家畜化したものですから、キバが生えることは、ブタを扱ったことのある人ならよく知られた事実です。年を取った雄^{うわこ}では上顎で7.5～10cmになるそうですが、普通は雄同士の戦いでキバが破損してしまいます。



ブタ？それともイノシシ？

佐藤 理夫

平成18年度第1回博物館協議会からの提言！

平成18年12月21日、博物館協議会が市立函館博物館本館集會室を会場に開催されました。これは、日頃、博物館で行われている資料の保存・活用を含めた事業の運営について、委員の方々から意見や提言をいただき、それを基に今後の博物館の運営に活かしていくというものです。

各委員からの意見のうち、博物館に来館するためのアクセスが不便である点や入館者数の減少、ホームページの案内が不十分であるなど貴重な意見をいただきました。

さらに、市民による博物館の活用は重要な課題であるとして、特別展や常設展の広報活動などを活用してより多くの市民に周知してはどうか、博物館で行っている児童向けの講座を学校の授業進度に合わせてはどうか、という提言も出されました。

ほかに、今回は入館者がアンケート用紙に記載した意見についても報告しました。その中で、①館内設備や展示に関する物が多く、階段やトイレなど障害者への館内の設備が不十分である。②イベント、特別展を増やして欲しい。③もっと宣伝やPRをすべきである。などの貴重な意見が寄せられました。博物館の現状では、館内の設備を直ちに变えることはできませんが、出来ることから対応をしていきたいと考えております。

このような各委員からの貴重な意見、さらには入館者の意見を参考に、今後ともより良い博物館を作っていきたいと考えております。

佐藤 理夫



飾られた花と谷口先生（右）

博物館 ちょっといい話

皆さんは博物館の入り口を入ってすぐ左の場所に花が飾ってあるのをご存じでしょうか。実はこの花は博物館で用意したものではありません。

なんと38年間もの長い間、毎年年末になると博物館に花を届けてくれる方がいるのです。その方は谷口宗月さん、函館市内に在住で茶道の先生をなさっています。

こうして飾られた花は今日も博物館を鮮やかに彩り、来館者達を出迎えます。皆さんも博物館にお越しになったとき少し辺りを見渡して花を探してみたいかがでしょうか。

成田 光

平成18年度博物館講座報告

～バスツアー「有珠善光寺と和綴じ本の旅」～

今年度の講座として、バスツアー「有珠善光寺と和綴じ本の旅」を開催しました。和綴じとは1000年以上の歴史を持つ針と糸で本を綴じる日本風の本の綴じ方のことをいいます。

平成18年7月2日(日)、参加者43名を乗せてバスは函館市役所前から伊達へと向けて出発しました。バスに揺られて3時間弱、時間に遅れることもなく伊達へ到着しました。

見学者は最初の見学地である伊達市開拓記念館へ向かいました。ここには伊達家に代々伝わる刀や甲冑の他にも、続縄文時代の骨角器などが展示されています。参加者は貴重な資料に触れ、伊達市の歴史や文化を堪能する事が出来ました。

次の見学地である噴火湾研究所ではまず施設内の見学です。考古や民俗、歴史など様々な資料を収蔵庫の中まで見せてもらうことができました。見学が終わったら次はいよいよ和綴じ本の作成体験です。参加者は黒田格男学芸員の指導の下、真剣な表情で取り組んでいました。およそ1時間の作成体験の後、参加者は時間内に無事完成させることが出来ました。

最後の見学地は北海道の寺の中でも有数の歴史を誇り、国の史跡にも指定されている有珠善光寺です。参加者は自由に境内や寺の中を散策していました。続いて善光寺境内にある有珠郷土館を見学しました。ここには円空作の観音像や一切経経典など貴重な資料が展示されています。副住職の丁寧な解説でよく理解できたようです。駆け足の見学でしたが、各施設の皆さんの丁寧な対応もあり、参加者は満足して帰路につきました。



伊達市開拓記念館の前で



和綴じ本の作成をする参加者

成田 光

平成18年度博物館講座開催表

ワークショップ（通年講座）

No.	講座名	開催期間	参加者数
1	自然観察入門講座	4月23日(日)～3月11日(日)まで年12回	28
2	四季の星空観測講座	5月19日(金)～1月26日(金)まで年5回	6

単 講 座

No.	講座名	開催期間	参加者数
1	地域の身近な自然を調べる「春の渡り鳥を観察しよう」	4月22日(土)	6
2	地域の身近な自然を調べる「タンポポの分布を調べてみよう」	5月6日(土)	1
3	天体観測シリーズ「春の星座観測」	5月19日(金)	12
4	地域の身近な自然を調べる「浜辺の漂着物を調べてアート体験しよう」	6月3日(土) 4日(日)	7
5	地域の身近な自然を調べる「イワツバメを観察してみよう」	6月17日(土)	2
6	本館展示解説セミナー特別企画展「没後20年 梁川剛一」	7月1日(土)	30
7	「善光寺と和綴じ本の旅」(バスツアー)	7月2日(日)	43
8	天体観測「七夕の星を見てみよう」	7月14日(金)	19
9	夏休み自由研究「鉄道車両の仕組みとJR見学会」	7月26日(水)	45
10	自由研究「自然のことで何でも調べてみよう1」	7月26日(水)	3
11	「親子で行く黒松内、ブナ林の旅」(バスツアー)	7月27日(木)	11
12	夏休み考古学講座「遺跡発掘体験」	7月28日(金)	15
13	親子で作る「ペタペタアート」	7月29日(土)	15
14	夏休み考古学講座「勾玉を作る」	8月2日(水)	15

単 講 座

No.	講座名	開催期間	参加者数
15	夏休み考古学講座「土器づくり」	8月3日(木)	18
16	分館展示解説セミナー特別展「北の守りと外国一級品に築かれた城」	8月4日(金)	8
17	夏休み自由研究「昔の道具を調べよう」	8月4日(金)	15
18	夏休み自由研究「博物館資料に触れてみよう一大砲の弾は重いかな?」	8月9日(水)	10
19	わくわく科学教室「ドライアイスで遊ぼう」	8月10日(木)	20
20	自由研究「自然のことで何でも調べてみよう2」	8月11日(金)	1
21	分館展示解説セミナー特別展「北の守りと外国一級品に築かれた城」(第2回)	8月11日(金)	16
22	夏休み自由研究「縄文体験—動物の骨で(釣り針)を作ろう」	8月12日(土)	25
23	夏休み自由研究五稜郭探検隊	8月15日(火)	5
24	わくわく科学教室「イカを科学する」(水産・海洋体験プログラム)	8月26日(土)	2
25	天体観測シリーズ「秋の星座と中秋の名月観望会」	9月8日(金)	14
26	自然おもしろミニ講座「押し葉・押し花作り」	9月9日(土)	8
27	わくわく科学教室「ガリレオが見た太陽系」	9月24日(日)	7
28	地域の身近な自然を調べる「函館山に居るカラスの様子を観察してみよう」	10月7日(土)	6
29	身近な自然を調べる「秋の渡り鳥を観察しよう」	11月4日(土)	3
30	冬休み自由研究「さし絵に挑戦!」(文学館と共催)	1月11日(木)	26
31	冬休み自由研究「蓄音機を鳴らしてみよう」	1月13日(土)	17
32	わくわく科学教室「もしも原子が見えたなら」	1月16日(火)	9
33	自然おもしろミニ講座「木の葉を描く」	2月10日(土)	0

はじめまして 新館長です。



函館博物館の長谷部です。2006年4月1日、2年振りの博物館復帰と相成り、博物館勤務も古株よろしく通算で四半世紀を迎えることとなりました。周知の通り、今年度はわが国の地方博物館の先駆け、開拓使函館仮博物館を前身とする市立函館博物館本館が、「ザ・ビートルズ、日本襲来!」の年にあたる1966年に開館してからちょうど40年を迎え、建物にも老練の風格と時の流れを漂わせています。

その中で時代と歩んできた博物館を物語るかのように、函館博物館の貴重な財産となっている新聞切り抜き記事の分厚いスクラップブックが今に引き継がれています。地域や先達が残してくれた輝かしい博物館の足跡を確かめながら、指定管理者制度や財政難など、博物館を取り巻くめまぐるしい社会状況を載せた新たな情報を貼り込んで、これからも変わるものと変わらないものを見極め、地域と時代を生き続け元気の出る博物館であらねばと思いつつ、朝がけのコーヒーを口に銚と糊を走らせる今日この頃です。

平成18年度新収蔵資料紹介

ここに掲載している新収蔵資料は、平成18年4月1日から平成19年2月28日までに受け入れたものです。

○寄贈資料

- ・川汲温泉薬王殿奉納絵馬龍の図 他 4件4点
[函館市・酒井 慶吾 氏寄贈]
- ・ルー・ゲーリック サインバット 他 3件4点
[函館市・阿部ゆめ子 氏寄贈]
- ・工作機械 1件8点
[函館市・函館産業遺産研究会 寄贈]
- ・タヌキ 他 2件8点
[函館市・北海道渡島支庁 寄贈]
- ・明治太平記 1件1点
[函館市・藤山 豊昭 氏寄贈]
- ・雛人形 1件47点
[函館市・堤 淳子 氏寄贈]
- ・雪下駄 他 3件4点
[函館市・増川 知子 氏寄贈]
- ・糸まき機 他 3件5点
[函館市・佐藤 禎男 氏寄贈]
- ・手控・大箱棟之仕様 他 13件67点
[函館市・小甲 裕久 氏寄贈]
- ・船図・船大工道具 4件6点
[函館市・新谷 悦郎・小田 初代 氏寄贈]
- ・琴・譜面 他 6件60点
[函館市・棚池 房江 氏寄贈]
- ・箱館港米国船入港乗組員市中歩遊之図 1件1点
[二本松市・吉田 昌央 氏寄贈]
- ・五月人形 他 14件90点
[函館市・加藤 孝治郎 氏寄贈]

博物館の機構と職員構成

■市立函館博物館本館

〒040-0044 函館市青柳町17-1
Tel. 0138-23-5480 Fax. 0138-23-0831
<http://www.museum.hakodate.hokkaido.jp>
hakohaku@museum.hakodate.hokkaido.jp

館長	長谷部一弘(←文化財課)
管理係長	中井 正房(←補導センター)
	伊部 則夫
	棚池 房江(←保健所)
	佐藤 恒一
学芸係長	佐藤 理夫(自然)(←五稜郭分館)
学芸員	佐藤 智雄(歴史・民俗)
学芸員	霜村 紀子(美術)
学芸員	成田 光(考古・民族)(←新採用)
	山本 泰子

◇函館の歴史や自然、生活道具、函館周辺の考古資料、美術資料を展示

■市立函館博物館五稜郭分館

〒040-0001 函館市五稜郭町44-2
Tel. 0138-51-2548 Fax. 0138-51-2146

分館長	佐藤 克己(←文化財課)
	富永 隆一
	白幡 隆

学芸員 保科 智治(歴史・民俗)

◇五稜郭、箱館戦争関係を展示

■市立函館博物館郷土資料館(旧金森洋物店)

〒040-0053 函館市末広町19-15
Tel&Fax. 0138-23-3095

◇旧金森洋物店、明治・大正期の生活道具を展示
詳しい資料の問合せは本館まで

ー誌名SARANIP(サラニップ)についてー
アイヌ語: シナの樹皮で編んだ袋。
博物館情報や研究成果などをSARANIPに入れておき、その蓄積が今後重要な資料となっていくようにと命名したものです。



SARANIPーサラニップーNo.46 2007.3.31発行

編集・発行 市立函館博物館

〒040-0044

函館市青柳町17-1(函館公園内)

Tel. 0138-23-5480 Fax. 0138-23-0831